

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380254

研究課題名(和文) 北欧型新自由主義の可能性とその歴史的背景

研究課題名(英文) A Study on Scandinavian Type Neoliberalism and its Background

研究代表者

橋本 努 (Hashimoto, Tsutomu)

北海道大学・経済学研究院・教授

研究者番号：40281779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：新自由主義の体制とその理念が、とりわけ北欧において、独自の形態をとり、新たな展開をみたことを踏まえて、その先に可能な、新しいタイプの自由主義経済思想の理念を探った。他方で新自由主義に対する批判は、フランスでは独特の観点からなされている。そのような批判を踏まえたとき、新しい自由主義の可能性はどこにあるのか。現代経済思想における、アマルティア・センの貢献「潜在能力アプローチ」や、最近になって飛躍的に台頭してきたキャス・サーンステイン等の「リバタリアン・パターナリズム」などの知見を踏まえて、自由主義の理念を再検討した。

研究成果の概要(英文)：The idea of neo-liberalism took its new form especially in Northern Europe and show new developments on its thought and policy. We explored the idea of this new type of liberal economic thought and its potentialities. On the other hand, many of original criticisms against neoliberalism have been made in French literatures. With reference to such criticism, we explored some possible forms of new liberalism. For example we examined Amartya Sen's contribution of capacity approach and Sun Stein's "Libertarian-Paternalism" in modern economic thought.

研究分野：経済思想

キーワード：新自由主義 自由主義 リベラリズム

### 1. 研究開始当初の背景

新自由主義に対する批判言説は、現代の市場経済システムに対する根本的な疑義として、90年代の後半から爆発的に増大し、グローバリズムに対する批判と呼応しながら、世界的なうねりをなしてきた。論文データベースの「Web of Science」で「neoliberalism」をトピック検索すると、この十年間で、3,000本以上の論文が、このテーマに関連して書かれていることが分かる。また Amazon や紀伊国屋の書籍検索では、この10年間で、500冊程度の本が、このテーマをめぐって(英語圏で)出版されている。経済学説史の分野でも、「アダム・スミスから新自由主義まで」を、入門的な教科書で扱う書籍が増えてきた。日本においても活発に議論されており、文献の数は膨大である。経済学の領域のみならず、教育学や社会学や政治思想の領域においても、大きな影響を及ぼしている。

にもかかわらず、新自由主義の経済思想的研究は、成熟していない。あまりにも多岐にわたる影響力をもつ概念であるため、いったいそこに共通の理解があるのかどうか、怪しい状況が生まれている。「新自由主義」の概念は、誰もがそれを直観的に知っているけれども、誰も定義を明確に述べることができない、などと言われる。そうであればこそ概念分析とモデル化の研究は、学術的にも政策的にも、重要な意義をもちうるだろう。

他方で、新自由主義に対する理解は、この10年の間に少しずつ変容してきた。逆説的ながら、批判者たちの批判もまた、新自由主義の理念に包摂されてしまう可能性がでてきた。例えば90年代において、新自由主義に対抗する一つの実効的なオルタナティブは、アンソニー・ギデンズ著『第三の道』(原著1998年)に結実した。「第三の道」の経済思想は、イギリスのブレア政権の政策理念を導き、サッチャー政権時の新自由主義思想に代替するものと期待された。ところがその後、「第三の道」も、新自由主義の亜種であるとみなされるようになる。なぜ「第三の道」が新自由主義に包摂されてしまうのかについて検討することは、現代の経済思想を理解する上で重要な鍵となるだろう。

他方でゼロ年代に入ってから日本では、新自由主義に対する実効的なオルタナティブが、とりわけ北欧型の福祉社会モデルに求められた。ところが様々な点で新自由主義化している北欧諸国は、政策モデルとしてみた場合に、やはり新自由主義の思想に包摂される可能性がある。むしろそのような包摂は、既存の新自由主義への包摂ではなく、新自由主義思想の再規定と練り直しを通じた包摂となる。

### 2. 研究の目的

本研究の初発の関心は、新自由主義の概念がゼロ年代に入ってから変容し、多様化してきたという点にある。例えば、マウリツィ

オ・ラツァラート著『借金人間製造工場』(原著2011年)や、フレデリック・ロルドン『なぜ私たちは、喜んで“資本主義の奴隷”になるのか?』(原著2010年)は、いずれも独創的な仕方での概念を再規定した上で、批判を展開している。前者は「規制緩和と国債発行=財政赤字の同時発生」を、後者は「資本家的欲望による捕獲(幸せな労働者)」の問題を、それぞれ提起している。新たな経済思想の展開を踏まえた上で、新自由主義の多様性と批判者たちの批判を丹念に検討し、新たに北欧型の新自由主義経済思想を理念化することが課題となる。

### 3. 研究の方法

本研究は、三つの段階に分けて計画を立て、展開していく。第一段階においては、学説史的検討と概念分析が中心となる。膨大な数にのぼる文献のなかから、基本的なものを猟歩していくと同時に、とりわけモン・ペルラン協会の活動との関連において、新自由主義の歴史的展開を捉えたい。第二段階においては、現代における言説分析をすすめるために、オングの新自由主義分析を手法として参照しながら、とりわけ日本の言説分析と現状分析をすすめる。最後に、第三段階においては、類型論的分析から、北欧型新自由主義のモデルを提示するにいたるまでの研究を進めたい。

日本における新自由主義の言説の多くは、新自由主義を批判するものであり、その内容は根源的であるとしても、多くの場合、断片的なものにとどまってきた。根源的かつ断片的な批判を検討する方法は、その批判が拠って立つ価値観を、規範理論の観点から批判的に検討し、その長所と短所を明確にすると同時に、批判理論としての、あるいは規範理論としての、体系化可能性を探ることである。そのために、ロールズ以降の規範理論に学び、その成果を応用して、新自由主義批判の体系的な意義を解釈したい。

第三段階における、典型的な分析については、現代の福祉国家論や労働経済学を参照しつつすすめることが正攻法となる。学説史的にみて、「第三の道」という発想は、20世紀の歴史の中でさまざまな仕方でも提起されてきたが、なかでも例えば、ギデンズ著『第三の道』との比較によって、「北欧型新自由主義」モデルの優位性を主張することは、有意義な認識利得をもたらすと考えられる。またカナダ型や北欧型の新自由主義を検討する際には、OECDやWorld Bankが提供する指標を用いて分析することになる。

本研究は、新自由主義の言説を総合的に分析することを目指しているため、教育思想や、日本の政党政治をめぐる現代政治学の分析手法、あるいは福祉国家論や労働政策論などの諸分野のテキストを検討し、またそれにふさわしい手法を用いる。

#### 4. 研究成果

「北欧型新自由主義」の思想を検討するに際して、まず本研究では、日本において「新自由主義」の言説がいかにかに語られてきたのかについて検討した。また新自由主義思想に対して最も根源的な批判が提起されるフランスの現代思想において、同批判がいかなるオルタナティブを提起しているのかを検討した。これらの研究から見てきたのは、新自由主義がケインズ主義を包摂する形で変容してきたことであり、また批判者の立場も、ケインズ主義批判を含めた視点を提起し、論争の次元が新たな段階に入ったことである。

合わせて北欧社会ではこの20年間で新自由主義の政策が浸透し、福祉国家を前提としながらも新たな経済体制を模索する動きがあった。その特徴は様々な点で特筆すべきであるが、本研究では、福祉国家の哲学的基礎を再検討し、そこに北欧型の新自由主義から示唆される理念を体系的に論じることに一定の成果を得た。北欧型の一つの特徴は、福祉国家の政策が、国民ないし社会に対する投資志向をもつものであり、この点でアマルティア・センの「ケイパビリティ」促進論と親和性をもつ。本研究ではこのケイパビリティ概念の哲学的検討から、新たに「ポテンシャルリティとしてのケイパビリティ」という理念を提起し、その含意を明らかにした。また他方で、行動経済学等を取り入れて発展しつつある現代のリバタリアン・パターナリズムの経済思想・法哲学の検討から、新たに「ヴィタ・アクティヴァ」モデルとしての政府介入正当化論を提起した。それは自律していない構成員が、政府に対して、自身を自律させるために政府介入を要請するという正当化論の可能性を探るものであり、さらに自律の先にある社会理論を検討するものである。リバタリアン・パターナリズムは、社会的功利主義の観点から、あらゆる介入技術を肯定する傾向にある。しかしその正当化論をめぐって、一定の価値理念による方向性を提起することは、価値を争う民主主義社会において必要な手続きであり、本研究はそのような民主的議論のための価値争点を明確にしつつ、北欧型の新自由主義が、いかなる福祉国家を正当化するのかについて明らかにした。

この正当化は、IT産業とともに新しく台頭してきた中間層が、どのような経済思想を支持するのか、またその意識はどのようなものかについての議論と深く関係する。本研究は新自由主義を含めた広い意味での「自由主義」が、現代においてどのように変容しているのかを検討し、「新しい中間層」が創造階級の市民的特徴を持ち、政府および家庭における投資志向を支持するのではないかとの仮説から、リベラリズム思想の新たな再編を行った。北欧型新自由主義がもつ「投資志向」という特徴は、実は現代のリベラリズム思想において、思想理念として議論されていない点に問題がある。本研究はこの点に注目して、

現代の自由主義ないし新自由主義がいかなる思想的変容ないし発展を遂げるのかについて検討した点に特徴がある。この点について、国際学会の他に、中国や韓国の大学での招待講演でも報告し、あるいはまたエッセイの形式で考察を発表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

Hashimoto Tsutomu "Stockowner and Employee Partnership: Some Ideas on Institutional Assistance," *The Annals of Center for Regional and Business Networks*, vol. 6, March 2017, pp.63-71.

橋本努「リバタリアン・パターナリズム批判 いかなる介入を正統化するべきか(上)」『思想』2016年8月号、第1108号、63-77頁、所収

橋本努「リバタリアン・パターナリズム批判 いかなる介入を正統化するべきか(下)」『思想』2016年9月号、第1109号、109-129頁、所収

橋本努「経済倫理教育の理念 - 「あなたにはなに主義」の分類学とそのアンケート結果に照らして - 」『経済教育』第35号、4-9頁、2016年、所収

橋本努「自律していない者たちの社会契約 リバタリアン・パターナリズム論の射程」内田隆三編『現代社会と人間への問い いかにして現在を流動化するのか?』せりか書房、2015年11月刊行、377-397頁、所収

橋本努「福祉国家の哲学的基礎(下) 潜勢的可能性としてのケイパビリティ」『思想』2015年5月号、no.1093、68-87頁、所収

橋本努「福祉国家の哲学的基礎(上) 潜勢的可能性としてのケイパビリティ」『思想』2015年4月号、no.1092、51-71頁、所収

橋本努「コミュニタリアニズムのために概念の再規定」『相関社会科学』第25号、2015年3月1日発行、123-128頁、所収

橋本努「高田保馬の勢力説」猪木武徳+マルクス・リュッターマン編『近代日本の公と私、官と民』NTT出版、2014年10月刊行、249-264頁、所収。

橋本努「「新自由主義」批判の変容 ラッツアーとロルドン」『経済社会学会年報』XXXVI号、2014年9月刊行、140-149頁、所収(査読付き)

Hashimoto Tsutomu "Discourses on Neoliberalism in Japan," in *Eurasia Border Review*, Vol.5, No.2, Fall 2014, pp.99-119. (査読付き)

Hashimoto Tsutomu "A Theory of Methodology in Social Sciences: A Functional Analysis" 『法学論集』(千葉大学)第29巻、第1・2号、2014年8月刊行、596(27)-560(63)頁、所収

橋本努「労働 理想の仕事とは何か」橋本努編『現代の経済思想』勁草書房、2014年、115-138頁、所収。

〔学会発表〕(計5件)

Hashimoto Tsutomu "A Theory of New Middle Class: Basic Idea" 6th French Network for Asian Studies International Conference (FNASIC) 26-28 Jun 2017, Sciences Po, Paris (France)

橋本努「意味ある仕事の分配論」経済社会学会全国大会、名古屋学院大学白鳥校舎、2017年9月17日

橋本努「社会学的啓蒙2.0 いかにして「新しい中間層」イデオロギーを可視化するか」数理社会学会シンポジウム「21世紀の社会学が解くべき問題」2017年3月14日 関西大学千里山キャンパス

橋本努基調講演「だれのために、なんのために 経済と倫理の接点を探る」『経済教育学会大会』2016年9月26日、日本体育大学 世田谷キャンパス

Hashimoto Tsutomu "Capability as Potentiality," paper presented at The 13th Conference of the International Society for Utilitarian Studies, 2014.8.21. at Yokohama National University.

〔図書〕(計1件)

『現代の経済思想』橋本努編、勁草書房、644頁、2014年10月刊行

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
<http://www.econ.hokudai.ac.jp/~hasimoto/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本努 (Hashimoto Tsutomu)  
北海道大学大学院・経済研究院・教授  
研究者番号：40281779

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )